

## 第20回 メイクランド施工コンテスト 総評

今回で第20回という節目の年を迎えたメイクランド施工コンテストですが、メイクランドの素材を戸建て住宅はもちろん分譲住宅や集合住宅にも積極的にご提案頂いた素晴らしい作品が数多く集まり、コンテストへ応募された皆さんの高い設計力、デザイン力、施工技術の高さを感じる事が出来ました。

一方、ご存知の通り 2025年4月から建築基準法が改定され、特に4号特例の縮小により業界にどのような変化が生じるのか様々な憶測が飛びかっています。建築会社においては今まで必要で無かった木造2階建てや平屋の構造計算関係の書類が必要となるので、業務も増え建築費に上乗せになるのではないかと推測しますが、エクステリア業界においては後付けカーポートなどの対応においてお客様への説明や覚書等の取り交わしが必須になると思われます。重ねて新築着工棟数の減少も明らかで、ますます住宅会社は不安材料が増えるばかりです。

しかし、エクステリア業界は今まで不十分なエクステリアで我慢していた方に対してフルリフォームという新しい切り口での販路もあり決して未来は暗くないと思っております。最近のエクステリアでの変化としましては植栽を少なめにしてグランドカバーとして少し大きめの自然石を合わせる傾向が強くなってきています。このようなケースでもメイクランドの自然石が多く採用されており新しい石の使い方の良い事例となっています。

このコンテストの受賞作品が多くエクステリア設計者、エンドユーザーの皆様の目にとまり、エクステリアデザインの参考になれば幸いです。

今年も審査員を代表して各部門の特徴や傾向を述べさせていただきます。

### 【門まわり・車庫まわり部門】

門まわりにおいては塗り壁や大判タイルを貼った門袖壁が相変わらず人気があるようですが、個性がなく単調になりやすい傾向があります。しかし、ここに自然石を合わせると存在感が増し個性も出しやすくなります。また、花壇の土の露出を防ぐ目的で自然石が使われるケースも目立ちました。

またファサードのアクセントとして蛇籠を使うケースも定着してきた様な気がします。一方、建売物件にもエクステリア商品が積極的に採用されるようになってきており、今後は楽しみです。

### 【庭まわり部門】

庭まわり部門では室内から眺める庭ではなく積極的に外へ出て家族で楽しむ庭へと変わってきていることに加え、メンテナンスにいても手間が掛からない庭にしたいという施主のリクエストが増えていると感じます。

またスタイリッシュにまとめられたガーデンデザインも人気があると思われます。

#### 【エクステリアリフォーム部門】

今後も受注数の増加が期待できるエクステリアリフォームでは、やはり Before と After のギャップ（変化度合い）が大きいほどインパクトがあります。そのためにはどちらも同じアングルで撮影することが重要で、工事着工前に完成をイメージして多めの写真を撮っておくことが重要です。

現在のエクステリアに対する不満や困りごとをリフォームによって見事に解決出来たことが写真から伝わってくる事例を期待しています。

#### 【ライティング部門】

ライティング部門でまず顕著なのが分譲住宅に多くの外部照明が使われるようになったことです。一昔まえの分譲地ではエクステリアの予算が十分に確保できず、照明を採用するケースは稀でした。しかし、多くの建物が並び街並みを構成する分譲計画においてファサードの照明を複数使うことで夜間もおしゃれで安心な街にすることができます。

#### 【パブリック部門】

この部門は戸建て住宅以外の商業施設や公園、緑道などのパブリックにおける作品が対象ですが、やはり応募数やそのクオリティーの高さが目立つのが分譲系の作品となります。

特に都市部では限られたスペースしかない狭小地が多い中、床の素材や植栽、アーチやアクセントを組み合わせた素晴らしい作品が多くありました。

#### 【プランニング部門】

この部門は共通の課題ではなく、実際のお客様にご提案した図面や完成写真で応募されるので敷地の大きさや予算、施主の好みもあり単純に見ただけでは比較できない難しさがあります。しかし、設計者自らプランニングの内容やセールスポイントなどを口頭で説明できないコンテストなので、それらをわかりやすく説明できるゾーニング図やコンセプト、設計趣旨を視覚的に伝えられる資料を追加して頂いた方が評価も高くなりますので忘れないようにして下さい。